



県評しずおか

静岡県労働組合評議会

〒420-0851

静岡市葵区黒金町55番地
交通ビル3階

TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973

Eメール kenpyo@cy.tnc.ne.jp

賃上げ・時短 全労働者に

国民春闘共闘委員会が年次総会を開催

国民春闘共闘委員会は10月18日、東京労働会館ラパスホールとオンライン併用で2025年度年次総会を開催しました。18単産・団体、25地方から120人が参加し、25年国民春闘方針構想と新役員体制、予算を確立しました。

開会あいさつに立った秋山正臣代表幹事（全労連議長）は、総選挙後の国会日程と国家公務員の給与法改正審議と関わって「仮に臨時国会で審議されなければ来年度通常国会での扱いとなり、予算審議が終わってからとなる。そうなれば早くても成立は3月、施行は新年度からとなる。もし、遡及改定されなければ、人権凍結であり、労働基本権制約の代償措置たる勧告制度が機能していないのだから、



開会のあいさつをする秋山議長

公務員もストライキで抗議すべき問題だ。特に国の期間業務職員や地方自治体の会計年度任用職員の賃金改定に備えて次年度予算に遡及分を確保させなければならぬ」と秋の賃金確定闘争も含めた公務員の賃金改善に向けたとりくみの強化を求めました。

また、人手不足の中でも、3割を超える新卒者が3年以内に離職していることに触れ、「『対話と学びあい』を進める中で、労働組合があるからこそ、働きやすい職場があること、労働組合に加入して一緒に要求を実現しよう」と呼びかけることを訴えました。

「労働組合主導の春闘」をめぐり、生活改善が実感できず、生活改善が実感できないすべての労働者の大幅賃上げ・底上げを実現させることをめざす。生計費原

この間の春闘では、四半世紀に及ぶ実質賃金の低下から「賃金上がる国への転換」をめざし、ストライキをはじめ、たかろう労働組合のバリエーションアップで前進してきました。24国民春闘では27年ぶりとる加平均1万円を越える賃上げを実現し、公務員賃金でも30年ぶりの水準をつくり、最低賃金改定でも51円・5.1%の過去最高の引上げを引き出すなど、賃上げの「追い風」状況をつくり出してきたと強調しました。



一コマ漫画

セクハラ裁判 これ以上の被害 生まないために

豊橋市にある大王パッケージで起きた「セクハラ・パワハラ」の裁判第2回目が10月7日、名古屋地裁豊橋支部で行われ、法廷には入りきれないほどの支援の仲間が集まりました。

被告Aは、原告の腕を突つた行為は認めているが、その理由は「空気と和ませるため『まあまあ』という趣旨」として「その必要もなく、たまたま体に触れる行為は許されない。腕を突つたかなければ、組織が強く大きくなること、仲間を増やして春闘に勝利する活動スタイルに変えることに最後までこだわり、組合員との『対話と学びあい』の実践を積み上げることを呼びかけた。

「軍事費を削って、くらしと福祉・教育の充実を求める」国民大運動静岡県実行委員会が11月1日県担当者との交渉を行いました。



裁判傍聴に集まった支援者

くらしと福祉の充実求め 静岡県との交渉実施

この実行委員会は、静岡県、静岡県商連、原発をなくす会など15団体が参加、当日の参加者は、延べ120名を超えました。

静岡県評は「公契約条例の下限の賃金設定」「最低賃金1500円の働きかけ」と中小業者支援策」「自然災害に対する対策」「リアン新幹線トンネル工事」「静岡県労働委員会労働者側委員の選任」の6項目の要望を出しました。「最低賃金1500円への働きかけ」については、近年多くの県知事が最賃引き上げで地方最賃審議会に知事として意見を提出していることから、静岡県においても他県と同様に知事の意見書を提出するよう求めました。中小業者支援策についても、他県の実施策を参考に県独自の支援策に取り組んでいただくよう要請しました。

自民・公明政権の 歴史的な大敗！

第50回衆議院選挙の結果について

10月27日に投票がおこなわれた第50回衆議院選挙で自公両党は、大きく後退し過半数割れとなる歴史的な大敗を喫しました。自民・公明合わせで公示前の279議席から215議席へ。自公の過半数割れは、民主党が政権交代した2009年以来です。

これは自民党の裏金づくり、統一教会との選挙協力・癒着などの問題に蓋をして選挙を強行した結果であり、自民党政治への厳しい国民の審判が下った結果です。今後の政権運営については先の見えない状況ですが大局的に見れば、自民党政治に代わる新しい政治を模索し探求する、新しい道が始まったことを示すものです。

静岡県評は、総選挙にあたっての総選挙闘争方針を、①全体的な国民的要求、静岡県評の大会要求を基本としながら、各個人・組合員が「こんな政治・政策が実現してほしい」という夢や希望」を対話し、学

びあいを行なう。②政治の転換と要求実現のため、総選挙は、かならず投票に行こうと呼びかける、としていました。今回の選挙での方針実現は十分となりましたが、わたしたち静岡県評は、この選挙結果を歓迎し今後も「軍拡・増税でなく、暮らしと社会保障の充実を」と声を上げ、労働者・国民の不安を取り除き、信頼に込めうる政治を野党各党に求め、その実現をめざして奮闘していきます。



要請書を手渡す県商連大石会長

要請は43項目190事項にのぼり、教育問題、平和問題、業者問題など多岐にわたるものでした。国民大運動静岡県実行委員会は、積極的な交渉を行い、来年度

組織拡大に向けて交流 ブロック組織拡大交流会

全労連東海北陸ブロック組織拡大交流会は10月19日、20日に三重県菟野町の国民宿舎で開催されました。参加者は静岡・岐阜・福井・三重・石川・愛知などの労組から24名が集まりました。静岡県からは上野事務局長など5名が参加しました。開催挨拶で全労連東海北陸地方協議会の長曾輝夫議長は「組織拡大で悩みを抱えている組織は少なくない。皆様には学習と他労組との意見交流で組織拡大と要求実現に尽力していただきたい」と述べま



ブロック集会参加者一同

所定労働時間 7時間をめざす

10月17日、定例研究会が開催されました。「いちちと健康を守り人間らしく働くルール確立めざす労働時間短縮」と題して、佐々木昭三氏が報告しま



報告する佐々木氏

所定労働時間7時間(週35時間労働)をめざす労働時間短縮は、健康で人間らしく働けるルールの確立をめざすものである。そのためには、残業がなくても生活できる賃金確保と雇用の安定と格差是正・均等待遇、残業規制・年休取得ができる人員確保・増員が不可欠である。フランス・ドイツ・西欧諸国などは、1日所定労働7時間、週35時間で年休取得は6労働週、連続休暇は夏のバカンス4労働週、冬のクリスマス2労働週、夜勤労働者保

る課題が出ました。静岡県評の市村常任幹事もタクシー運転手の課題について発表しました。組織拡大交流会は2日間にわたって行わ

人間らしい生活を！のちを守る 第9回県民のつどい開催

10月26日「人間らしい生活を！のちを守る」第9回県民のつどい」がロッキンセンターで開催されました。翌日選挙とあつて、30名ほどの参加でしたが、2016年にスタートしたこのつどいも9回目を迎えました。



講演する白沢仁氏

日本社会の貧困と格差は縮小するどころか拡大しているのが現実です。今回は「障がい者運動の歴史は長く、障全協も結成から60年を迎えます。理不尽な現実や法律に対し、当事者と様々な団体との共同で運動を進め、法律を変えさせるまで闘っています。当事者と共同・連帯の力で運動」これは、私たちの運動にも通じるものです。「障がい」と一口で言ってもさまざまです。特に近年増えているのが、精神障害、発達障害学習障害です。まだ対応が十分ではなく、当事者も現場も家族もつらい思いをしています。他人事ではなく自分のこととして考えること

れました。静岡県評も組織拡大は最大の課題です。各労組は対話と要求で労働条件を改善して組織拡大を目指しましょう。

物価高騰に見合う年金の引き上げを 年金フェスタ一揆開催

年金者組合員と支援する市民・県民約80名は、年金支給日の10月15日「10・15静岡年金フェスタ・一揆」を、静岡青葉公園で開催しました。



挨拶する塚平勝司委員長

「年金は、高齢者にとって、生きていくための「命綱」です。その年金が今年も4%引き下げられ、この12年間で、実質7.8%も引き下げられています。一方、ここ数年、物価高騰が年金受給者の生活を直撃しています。物価が高騰しているのに、なぜ、年金を下げるのか？」の怒りの声が高まっている中で開催しました。

11時から「年金支給日宣伝行動」を50人でスタートしました。お昼のアトラクションを挟んで13時から、「10・15静岡年金フェスタ・一揆」の集会を開催しました。

現場の報告がありました。障がい者に寄り添って作業所を運営するきょうさせん低所得者家庭の学習支援をする学生ネットワークで出会った発達障害や学習障害の子供たち。危険な場所に

過労死等防犯対策シンポジウム開催
過労死等防犯対策シンポジウムが11月6日、浜松の静岡新聞ホールで開催された。静岡労働局からの報告、基調講演、企業の取り組み事例の紹介があった。労働局からの報告では、過労死等防犯対策推進法に関する大綱制定から来年は10年目になる。一定の成果がみられるが、

障がい者運動の歴史は長く、障全協も結成から60年を迎えます。理不尽な現実や法律に対し、当事者と様々な団体との共同で運動を進め、法律を変えさせるまで闘っています。当事者と共同・連帯の力で運動」これは、私たちの運動にも通じるものです。「障がい」と一口で言ってもさまざまです。特に近年増えているのが、精神障害、発達障害学習障害です。まだ対応が十分ではなく、当事者も現場も家族もつらい思いをしています。他人事ではなく自分のこととして考えること

過労死等防犯対策シンポジウム開催
過労死等防犯対策シンポジウムが11月6日、浜松の静岡新聞ホールで開催された。静岡労働局からの報告、基調講演、企業の取り組み事例の紹介があった。労働局からの報告では、過労死等防犯対策推進法に関する大綱制定から来年は10年目になる。一定の成果がみられるが、

過労死等防犯対策シンポジウム開催
過労死等防犯対策シンポジウムが11月6日、浜松の静岡新聞ホールで開催された。静岡労働局からの報告、基調講演、企業の取り組み事例の紹介があった。労働局からの報告では、過労死等防犯対策推進法に関する大綱制定から来年は10年目になる。一定の成果がみられるが、

過労死等防犯対策シンポジウム開催
過労死等防犯対策シンポジウムが11月6日、浜松の静岡新聞ホールで開催された。静岡労働局からの報告、基調講演、企業の取り組み事例の紹介があった。労働局からの報告では、過労死等防犯対策推進法に関する大綱制定から来年は10年目になる。一定の成果がみられるが、

過労死等防犯対策シンポジウム開催
過労死等防犯対策シンポジウムが11月6日、浜松の静岡新聞ホールで開催された。静岡労働局からの報告、基調講演、企業の取り組み事例の紹介があった。労働局からの報告では、過労死等防犯対策推進法に関する大綱制定から来年は10年目になる。一定の成果がみられるが、

過労死等防犯対策シンポジウム開催
過労死等防犯対策シンポジウムが11月6日、浜松の静岡新聞ホールで開催された。静岡労働局からの報告、基調講演、企業の取り組み事例の紹介があった。労働局からの報告では、過労死等防犯対策推進法に関する大綱制定から来年は10年目になる。一定の成果がみられるが、

職場の安全衛生を実現するために 静岡県安全健康センター No. 106



講演する東海林智氏

「低賃金労働が覆う雇用社会」と題して毎日新聞社会部記者 東海林智氏による基調講演があった。1995年以降、非正規労働者が増加し、正規労働者が減少し、正規と非正規という分断が生じた。そのため、非正規もハラスメント被害や無理な働き方を続けるなど過労死・自死の要因の一つとなっている。過労死など労災認定され、会社が遺族に謝罪し再発防止に繋がれば

よいが、謝罪しない場合には企業名を公開し、社会的監視が必要。過剰な業務を労働者が拒否できない現状では、労働組合を機能させ、労働安全衛生委員会等システムに取り組みべきである。労働者として、働き方に関心を持っていきたい。また、労働者を守るべき「労基法」の見直しについても注視したい。東海林氏は新自由主義の心身両面での競争強制こそが過労死の原因であり、それが限る限り過労死はなくなりたくない。厚労省主催のシンポジウムでここまで本質をついた講演ができたことは大いに可とすべきである。東海林智氏著「ルポ低賃金」地平社刊も読んでみたい。

勝利判決報告集会 袴田巖さん完全無罪

10月14日、静岡労働会館で支援者約250名と多くのマスコミ取材が待機される中で報告集会が開催されました。1966年に静岡市(旧清水市)の一家4人の殺害で死刑が確定。袴田さんは一貫して無罪を訴え続け再審まで長期の年月を経て9月26日に無罪判

決、10月8日に検察が控訴を断念したことで逮捕から58年、再審無罪を勝ち取ることができました。この間支えてきた弁護団と支援の大きな力となった日本プロボクシング協会の演出もあり、巖さんと姉のひで子さんは、映画「ロッキー」のテーマ曲が流れ拍手と歓声やテープが飛び交う中で迎えられる登場しました。壇上で巖さんは、公の場で初めて「完全な無罪が実りました」と発言しました。弁護団の小川弁護士をはじめ審議に関わった方たちは、勝利の感激とともに再審法の改正の必要性を強く訴えました。姉のひで子さんは支援者に無罪勝利のお礼と、今後も巖さんを支えるとともに冤罪で争う方たちの支援を続けることを誓いました。